

平成25年度 新発田市生活科部 活動報告

部長 清野 博子

1 研究主題

自分の思いをもち、いきいきと活動する子どもの育成

2 研究の概要

子どもたちがいきいきと活動する姿、活動を通して気付いたことを素直に表現する姿を目指して研究を行った。授業研究に向けて、実技研修を実施した。

3 研究の実際

4月 研究テーマ・活動計画の立案

6月 実技研修「動くおもちゃ作り」

講師：新発田市立猿橋小学校 教諭 阿部英幸様

1 1月 授業研究

2年「うごく うごく わたしのおもちゃ」

授業者：新発田市立七葉小学校 教諭 佐藤聖美先生

指導者：阿賀野市立保田小学校 校長 相馬重輔様

○本時のねらい

おもちゃの機能を高める工夫を考え、繰り返し試したり比べたりしながら、自分なりにおもちゃを改良することができる。

○本時の構想

気付きやかかわりを生み、科学的な見方・考え方の基礎を養うという視点から、次のような手立てを講じた。

- ① おもちゃの動力を児童が扱いやすいゴムに限定し、気付きを共有しやすくする。
- ② 繰り返し試したり比べたりできるように活動の場を工夫する。
- ③ 気付きを自覚したり明確にしたりできるよう振り返りを書くときの文型を示す。



4 成果と課題

<実技研修>

○紹介していただいたおもちゃについて、主な材料が牛乳パックや段ボール、ビニール袋など身近にあるもので作りやすいということ、さらに、作って終わりではなく、動きをよくするための工夫の余地があるということ、実際に作ることで実感することができた。

○部員の知らない便利な材料の紹介もあり、多様で充実した内容だった。

<授業研究>

○おもちゃの動力をゴムに限定したことで、改良しやすく、工夫に広がりが見られ、共通点も見つけやすかった。

○「パワーアップコーナー」の材料が充実して、ゴムの長さや太さをいろいろに変えて試すことができた。「お試しコーナー」では、床や壁にラインを引いておくことで「速い」「遠い」「高い」などを視覚で比べることができ、改良の効果に気付いたり、さらなる改良への意欲をもったりすることができた。

○「〇〇したら、□□になった。」という文型を使って活動を振り返ることで、おもちゃを改良したことによる動きの変化を明確にすることができた。

▲動力は全員ゴムで共通だったが、作ったおもちゃはそれぞれ違っていたので、同じおもちゃ同士で活動すると、さらに工夫を共有できたのではないかと。

▲「〇〇したら、□□になった」だけでなく、「どうして〇〇すると、□□になるのか。」まで考えさせると、より、科学的な見方・考え方の基礎を養うことができるのではないかと。

☞指導 主に以下の点についてご指導いただき、今後の研究に向け大変勉強になった。

- ・どのレベルでの遊びなら学びと捉えることができるか、取り組ませる遊びが児童の発達段階に合っているかなどについて、低学年を指導する者として熟考することが大切である。
- ・児童の困り感をつかむ上でも、思考と表現を一体化させることが重要である。

